

# 各種団体意見交換会

## <結果報告書>

### 1. 実施概要

#### (1) 目的

第6次総合振興計画を策定するにあたり、各種団体の現状や課題、今後の取り組みや町への要望などを把握すること。

#### (2) 各種団体意見交換会の実施日時・対象団体

分野	団体名	開催日時
コミュニティ (6団体)	・ 芦屋町老人クラブ連合会 ・ 芦屋町区長会 ・ 芦屋町文化協会 ・ 芦屋町国際交流協会 ・ 芦屋町手をつなぐリボンの会	令和元年12月2日(月) 13:30~15:00
	・ 芦屋町体育協会	令和元年12月5日(木) 15:30~17:00
産業振興 (4団体)	・ 芦屋町代表農事組合 ・ 遠賀漁業協同組合 ・ 芦屋町商工会 ・ 一般社団法人芦屋町観光協会	令和元年12月5日(木) 13:30~15:00
教育・福祉 (5団体)	・ 芦屋町社会福祉協議会 ・ 芦屋町4校PTA連絡協議会 ・ 芦屋町青少年健全育成町民会議 ・ 芦屋町人権・同和教育研究協議会	令和元年12月5日(木) 15:30~17:00
	・ 芦屋町民生委員・児童委員協議会	令和元年12月5日(木) 13:30~15:00

## 2. 意見の内容

### (1) コミュニティ分野

#### ①団体の取り組みに関する課題・対応策について

分類	問題・課題	実施中の対策・対策の提案
会員やボランティア等の人材不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1つの団体単位で活動していくのに限界を感じている。</li> <li>●女性ばかりの団体と思われているため、男性が参加しづらくなってしまい、人材不足となっている。</li> <li>●定年の引き上げにより日中は仕事をしている高齢者も多くなったため、団体構成員の高齢化が加速している。</li> <li>●自治区では、役職が回ってきそうになると自治区を辞めてしまう人もいる。</li> <li>●任期を定めていても、再任を妨げない場合、同じ人がずっと代表を務めなければならないことがある。</li> <li>●民生委員は自治区から1名輩出する規定だが、不在の自治区を隣接自治区の方がカバーしている。</li> </ul>	<p><b>【実施中の対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●講習会等は周辺市町と連携して行っている。</li> <li>●他市町の団体から人材支援を得ることがある。</li> <li>●市町村をまたぐ活動をしているので、町外者の協力を得ている（町外役員）。</li> <li>●航空自衛隊芦屋基地のOBが代々役員を務めており、退任する際に新たなOBに引き継ぎしている。</li> <li>●役場職員の協力を得ている。</li> </ul> <p><b>【対策の提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●他団体の取り組みで目的が似たものであれば、連携して取り組めないか。</li> <li>●ボランティアセンターに登録している方に、取り組みに参加してもらえないか。</li> <li>●取り組みに係る方も含めて団体同士で連携できないか。</li> </ul>
活動拠点がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事務所を設けられず、問合せ対応・情報発信が難しい。</li> </ul>	<p><b>【実施中の対策】</b> なし</p> <p><b>【対策の提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●団体の活動拠点を設置する。</li> </ul>

#### 【まとめ】

- 「団体の役員」「取り組みの人材（一般構成員・参加者）」ともに人材が不足している。
- 人材不足の対策として、町内外の団体と連携するなどの方法が考えられる。
- 会議の開催場所、問合せの窓口となる事務所の不在により、日ごろの活動の維持が難しいため、複数団体が共有できる活動拠点があるとよい。

②芦屋町のまちづくりや、取り組みに関する課題・対応策について

分類	問題・課題	実施中の対策・対策の提案
住民の関心が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協力する人だけが協力している状況の中、同じ人が複数の団体で役職を担っており、特定の個人に負担が偏っている。</li> <li>● 「誰かがやってくれる」という意識がある。</li> <li>● イベントの参加者が固定化されている。</li> </ul>	<p><b>【実施中の対策】</b> なし</p> <p><b>【対策の提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民の「誰かがやってくれる」という意識を改善していきたい。</li> </ul>
取り組み・事業数が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体の人材の数が減少していくのに対し、町から委託される事業も含め、取り組みの数が増えている。</li> <li>● 仮に、長年続けてきた取り組みを辞めてしまった場合、それまでに培った蓄積が無駄になってしまう。</li> <li>● 町内のイベントが多く、イベント同士で開催日程を調整していないため、お客さんを取り合っている。集客が減ると、取り組みへのモチベーションも下がってしまう。</li> </ul>	<p><b>【実施中の対策】</b> なし</p> <p><b>【対策の提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他団体の取り組みで目的が似たものであれば、連携して取り組みないか。</li> </ul>
人口減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口が1万4,000人を下回った現在、これまでと同じ取り組みを継続していく方法では、町の規模とミスマッチが起こっているのではないか。</li> <li>● 自衛隊職員が芦屋基地に赴任しても、退官後に芦屋町を離れ、岡垣町など周辺市町に出ていってしまう場合もある。</li> </ul>	

**【まとめ】**

- 特定の住民だけではなく、全住民が携わる意識改革が必要である。
- 人口が減少していく中で、これまでと同じ取り組みを同じ方法で続けていくと、関わる団体・人の負担が大きくなってしまう。取り組みを続ける方法の1つとして、団体同士の連携が考えられる。

### ③行政と連携して取り組みたいこと・行政への要望等について

分類	問題・課題	連携して取り組みたいことや要望
行政と団体・団体 同士の活動の連携 (連携支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1つの団体単位で活動していくのに限界を感じている。</li> <li>●人材不足にも関わらず取り組む事業の数が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●複数の団体で、同じ目的で実施している取り組みは連携していきたい。ただし、団体だけで取り組みの整理や協議を進めることは難しいため、行政に支援していただきたい。</li> </ul>

#### 【まとめ】

- 目的が似ている取り組みについては、団体同士が連携して進めることで負担が軽減し、活動の継続につながる可能性がある。
- 団体同士の連携のために、団体の取り組みの整理や協議の場を整えることなどに、行政の支援が望まれている。

## (2) 産業振興グループ

### ①団体の取り組みに関する課題・対応策について

分類	問題・課題	実施中の対策・対策の提案
会員への還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光協会の会員に、会費分（個人：6,000円、法人：12,000円）を還元するためにより良い方法がないか、模索している。</li> </ul>	—
マンパワー不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商工会の方針として、近年は伴走型支援（一対一の支援）を行っている。1商工会あたりの職員数は定数が決められているため、増やすことはできず、職員1人あたりの負担は増加している。</li> </ul>	—
取り組み・事業数が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光協会は、観光・交流系のイベントについては町から事務局を任されることが多いが、団体本来のミッションとギャップを感じたり、イベントが多く職員への負担が大きい。</li> </ul>	—

#### 【まとめ】

- 事業や活動に対し、職員数が不足しており負担が増している。

②芦屋町のまちづくりや、取り組みに関する課題・対応策について

分類	問題・課題	実施中の対策・対策の提案
産業の低迷・担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者が高齢化している。</li> <li>● 特に漁業は、経費の値上がりと収益減により経営が厳しく、自分の子どもに事業継承をする意向のない人も多い。</li> <li>● 組合の支所の合併が進んでいる（組合員数が一定を下回ると解散になるため）。</li> <li>● 町内で開催されるイベントで、町内事業者の出展割合が低い（3分の1程度）。呼び掛けてもなかなか出展につながらない。他の遠賀郡の事業者の方が積極的に出展している。</li> </ul>	<p><b>【実施中の対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新規就農者確保に向けては、行政と連携し取り組んでいる。</li> <li>● 芦屋・山鹿の2箇所で、事業者同士の寄り合いを2～3ヶ月ごとに実施している。</li> <li>● 水路を共同保全するなど、事業者同士で連携している。</li> </ul> <p><b>【対策の提案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな担い手を生むためにも、産業振興を盛り上げていくような取り組みを進めたい。</li> </ul>

**【まとめ】**

- 経営者の高齢化が進み、産業によっては経営が厳しいため担い手の育成の意向がない場合もある。
- 担い手の育成にはインフラを共有するなどの連携や、事業者同士が定期的に交流する場を設けるなど、現在行っている取り組みを継続するための工夫が必要である。

③行政と連携して取り組みたいこと・行政への要望等について

分類	問題・課題	実施中の対策・対策の提案
芦屋町の若者が集い語る場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若者の声が活かされにくいように感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産業は分野が異なるとなかなか交流が少ない。芦屋町で様々な分野で活動を進めている（進めたい）若者が集まり、連携して未来に向けた取り組みを生む場をつくってもらいたい。</li> </ul>

**【まとめ】**

- 分野ごとではなく、これからの芦屋町の未来をともに考えるためには、人々が集まる場が必要である。特に、若者が中心的に集まり、連携した取り組みにつながるような場が求められている。

(3) 教育・福祉分野

①団体の取り組みに関する課題・対応策について

分類	問題・課題	実施中の対策・対策の提案
<p>会員やボランティア等の人材不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取り組みを支えてもらうためのボランティアの確保が課題である。</li> <li>● 取り組みへの参加者（講演の聴講者等）の確保も課題である。例えば、女性の人権に関するテーマだと女性の限られた層しか来ないが、もっと多様な層に来ていただきたい。</li> <li>● 役員ができる人がどうしても高齢者中心になってしまい、今後も取り組みを続けるために必要となる次世代への継承に向けた取り組みができていない。</li> <li>● PTA 連絡協議会の事務局は 4 校持ち回りで会長の任期が 1 年となっている。負担を分散させる目的もあるが、1 年間だけではなかなか活動を引き継ぐことが難しい。</li> </ul>	<p><b>【実施中の対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会福祉協議会ではシルバー人材（60 名ほど）や、自主的にボランティアとして携わってくれる民生委員などで会としての取り組みを支えてもらっている。</li> <li>● イベントへの支援など、他市町の団体と連携した取り組みを行っている。</li> </ul> <p><b>【対策の提案】</b> なし</p>

**【まとめ】**

- 役員の担い手が不足している。1 人の任期が長期化することで負担が大きくなる問題がある一方、負担軽減のために任期を短く設定すると、活動の引継ぎが難しくなるという問題もある。
- 「取り組みの人材（一般構成員・参加者）」を得るために、町内のシルバー人材やボランティア等、活動に賛同する人や、町外の人に支援してもらい仕組みが一部団体にはある。

## ②芦屋町のまちづくりや、取り組みに関する課題・対応策について

分類	問題・課題	実施中の対策・対策の提案
住民の関心が低い	● イベントや講演会などを開催しても参加者が少ない（固定化されている）	【実施中の対策】 なし 【対策の提案】 ● 住民の「誰かがやってくれる」という意識を改善していきたい。
参加要請の増加	● 婦人会が解散したため、その代わりとして PTA に来てもらいたいという要請がある。時折、自分たちがなぜ参加しなければならないのか、目的が不明瞭なことがある。	
ルール化	● 虐待のニュースは近年ますます報じられている。生死に直結する福祉であるが、近隣の住民やPTA、福祉団体等がどのくらい関与できるかは個別判断となってしまう、通報に躊躇してしまっていないか。通報のルール化必要と思うが難しい。	

### 【まとめ】

- 団体活動に対しての住民の関心が低く、参加者が少ない。
- 福祉に関する問題はルール化が難しい。

## ③行政と連携して取り組みたいこと・行政への要望等について

分類	問題・課題	実施中の対策・対策の提案
長期的な団体運営の維持	● 長期的な団体運営のためには効率的に活動するだけでなく、住民（特に子どもたち）の意識や心を育む取り組みや教育が必要。	● 住民の意識や心を育む取り組みや教育を推進してほしい。

### 【まとめ】

- 人材育成が求められている。



【参考】事前アンケート

第6次芦屋町総合振興計画策定のための各種団体意見調査シート

団体名	
代表者氏名	
参加者氏名	

(1) 基本情報〔不明な場合は『不明』と回答してください〕

① 設立年		② 構成員の状況（数字を記入）	
( ) 年		構成員 ( ) 人	
		内 男性 ( ) 人	
		女性 ( ) 人	
		構成員の平均年齢 ( ) 歳くらい	
③ 活動の頻度（○はひとつ）			
1. 週に1回程度    2. 月に1~2回程度    3. 2~3ヶ月に1回程度 4. 半年に1回程度    5. 年に1回程度    6. ほぼ活動なし			
④ 主な活動場所（○はひとつ）※一部地域で活動している場合は（ ）内に地域名等を記入			
1. 芦屋町の一部 ( )		2. 芦屋町の全域	
3. 芦屋町および隣接市町村		4. その他 ( )	
⑤ 活動の分野（○はいくつでも）			
1. 産業振興（農林水産業含む）		2. 観光・交流活性化	
3. 健康づくり・スポーツ		4. 福祉（児童・高齢者・障がい者）	
5. 地域コミュニティ		6. 生涯学習・スポーツ・文化芸術	
7. 環境保全・環境美化		8. 国際交流	
9. 防犯・防災・交通安全		10. 教育・青少年健全育成	
11. 人権啓発		12. その他 ( )	

<次頁へ>

## (2) 団体の取り組み状況

### ① 実施している活動の内容

--

### ② 貴団体の現状及び今後の取り組みの予定（活動内容の拡大・展開など）について

--

### ③ 貴団体の課題（現在抱える課題・今後想定される課題）について

--

## (3) 芦屋町のまちづくりの課題

### ① 団体活動を通じて感じられる芦屋町におけるまちづくりの良いところについて

--

### ② 団体活動を通じて感じられる芦屋町におけるまちづくりの課題・問題点について

--

<次頁へ>

③ ②の課題や問題点に対し望まれる対応策について

--

(4) 行政との協働・連携の方向性や望むこと

① 行政とともに取り組みたいこと

--

② 上記の取り組みを進めるにあたって望むこと・必要な支援

--

(5) その他

※芦屋町の将来のまちづくりに関し、提案等があれば教えてください

--



【参考】団体事前アンケート結果

	コミュニティ分野					
団体名	芦屋町老人クラブ連合会	芦屋町区長会	芦屋町文化協会	芦屋町国際交流協会	芦屋町手をつなぐリボンの会	芦屋町体育協会・芦屋町スポーツ少年団
代表者氏名	会長 古長 撓男	片山 和夫	田中 伸幸	会長 田中 美佐子	田口 博美	松上 宏幸
参加者氏名	・長沢 正行 ・末武 司郎	・石川 智雄	・古野 嘉子	・会長 田中 美佐子 ・副会長 香田 一之 ・副会長 信国 浩	・田口 博美	・島岡 清孝
(1)①設立年	S53	不明	H3	H3	H12,6月	1954 (S29)
(1)②構成員の人数	623	区長30人 (自治区加入世帯全部)	211	10	180	760 (体育495、スポ265)
(1)②男性	218	?	50	6	2	430 (体育245、スポ185)
(1)②女性	405	?	161	4	178	330 (体育250、スポ80)
(1)②平均年齢	75	70	70	52	75	不明
(1)③活動の頻度	月に1~2回程度	週に1回程度	月に1~2回程度	月に1~2回程度	月に1~2回程度	月に1~2回程度
(1)④主な活動場所	芦屋町の全域	3	芦屋町の全域	芦屋町の全域	芦屋町および隣接市町村	芦屋町および隣接市町村
(1)⑤活動の分野	3. 健康づくり・スポーツ 4. 福祉 (児童・高齢者・障がい者) 5. 地域コミュニティ 7. 環境保全・環境美化 9. 防犯・防災・交通安全	2. 観光・交流活性化 3. 健康づくり・スポーツ 4. 福祉 (児童・高齢者・障がい者) 5. 地域コミュニティ 6. 生涯学習・スポーツ・文化芸術 7. 環境保全・環境美化 9. 防犯・防災・交通安全 10. 教育・青少年健全育成 11. 人権啓発	6. 生涯学習・スポーツ・文化芸術	2. 観光・交流活性化 5. 地域コミュニティ 6. 生涯学習・スポーツ・文化芸術 8. 国際交流 10. 教育・青少年健全育成	4. 福祉 (児童・高齢者・障がい者) 5. 地域コミュニティ 6. 生涯学習・スポーツ・文化芸術 9. 防犯・防災・交通安全 11. 人権啓発	3. 健康づくり・スポーツ

コミュニティ分野						
団体名	芦屋町老人クラブ連合会	芦屋町区長会	芦屋町文化協会	芦屋町国際交流協会	芦屋町手をつなぐリボンの会	芦屋町体育協会・芦屋町スポーツ少年団
代表者氏名	会長 古長 撓男	片山 和夫	田中 伸幸	会長 田中 美佐子	田口 博美	松上 宏幸
参加者氏名	・長沢 正行 ・末武 司郎	・石川 智雄	・古野 嘉子	・会長 田中 美佐子 ・副会長 香田 一之 ・副会長 信国 浩	・田口 博美	・島岡 清孝
(2)①活動の内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民体育祭の参加（30区）</li> <li>・サロン事業への積極参加</li> <li>・自治区活性化に関する諸活動</li> <li>・ラブアース・地域一斉清掃活動</li> <li>・防犯・防災・交通安全パトロールの実施</li> <li>・砂像展・まつり芦屋への積極参加</li> <li>・人権まつり、あいさつ運動、みまもり活動の積極参加 他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化諸団体の育成と連絡調整などの活動支援</li> <li>・会員の展示会・発表会（文化祭）（北九州ブロック・地域別事業への参加）</li> <li>・会員の研修会の実施</li> <li>・町民への文化意識の高揚（文化講演）</li> <li>・他市町村の文化団体との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流ニュース「かけはし」の発行</li> <li>・料理教室（文化交流事業）</li> <li>・あしや砂像展ウェルカムパーティーへの協力</li> <li>・国際交流パーティー</li> <li>・バスハイク（文化交流研修）、役員研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6団体が所属しています</li> <li>・八朔（弁当作り、配食）</li> <li>・食進会（食生活改善推進）</li> <li>・めるへん（幼児・児童に対して劇、よみきかせ）</li> <li>・手話</li> <li>・あしの会（福祉施設に対する支援）</li> <li>・虹の会（読み聞かせ等）</li> </ul>	<p>日常的に各団体の練習を行っている</p> <p>年1回講師を招聘し研修会を実施</p>
(2)②現状と今後の取組予定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治区加入率の向上</li> <li>・少子高齢化に伴う福祉活動の積極的取組み</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容については現状維持補助金の削減があれば、活動の現状維持は難しく、縮小することになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体による情報交換</li> <li>・町行事等に参加</li> <li>・ボランティア研修会（中、遠賀）に参加</li> </ul>	<p>各団体の関わりがあるスポーツ大会を実施。協力を得ている。</p> <p>スポーツ少年団には障がい者レクスポのボランティア活動を実施</p>

コミュニティ分野						
団体名	芦屋町老人クラブ連合会	芦屋町区長会	芦屋町文化協会	芦屋町国際交流協会	芦屋町手をつなぐリボンの会	芦屋町体育協会・芦屋町スポーツ少年団
代表者氏名	会長 古長 撓男	片山 和夫	田中 伸幸	会長 田中 美佐子	田口 博美	松上 宏幸
参加者氏名	・長沢 正行 ・末武 司郎	・石川 智雄	・古野 嘉子	・会長 田中 美佐子 ・副会長 香田 一之 ・副会長 信国 浩	・田口 博美	・島岡 清孝
(2)③団体の課題	単位クラブ役員のなり手が少ない（役員の高齢化により廃止するクラブが続出）	・高齢化及び自治区世帯の減少 ・自治区の統廃合 ・公民館（自治区の）の運営に関する維持・管理及び財政支援	・会員の高齢化にともなう会員数の減少	・役員の高齢化 英会話が出来ない人ではないといけないという概念があり、なかなか役員のなり手がいない。英会話が出来ない人でも色々な活動に参加できるため、団体としては「英会話が出来ない」という制限はしていない。 高齢化に伴う、パーティー準備等の体力的な問題	・各団員の高齢化により後継者不足	小学生など人口減少によりスポーツ団体のチーム編成に困っているチームがある
(3)①芦屋町まちづくり良い所		・自衛隊基地との共栄共存 ・公営モーターボート事業の維持、発展 ・花火・砂像展・まつり芦屋の続行 ・あしや釜の里の事業維持向上 他	・砂像やまつりあしやで町内外の人々を取り込んだまちづくり	・外国人をお迎えする場として芦屋釜の里があること ・中央公民館の調理室はオープンもあって、広くて、使い勝手がよい ・ボランティアセンターを会議の場として使わせてもらえること	・自治体としてまとまっているので地域として取組みやすい	挨拶運動など積極的に行うよう指導している
(3)②芦屋町まちづくり課題・問題点		・人口減少 ・レジャー港事業に関する諸課題・問題点の洗い出し ・観光資源の発信 ・第2緑ヶ丘（日本鑄鍛鋼）住宅の将来展望 ・中央病院跡地の利用施策 ・正門商店街の活性化	・イベントが多すぎて、一つ一つが浸透していない。	・ボランティアセンターの受付の対応が良くないときが多い。利用しにくい雰囲気がある。	・枯れた松林（景観が悪い） ・空家（雑草が多い）	大人と子どもたち共通のスポーツ大会があれば良い

コミュニティ分野						
団体名	芦屋町老人クラブ連合会	芦屋町区長会	芦屋町文化協会	芦屋町国際交流協会	芦屋町手をつなぐリボンの会	芦屋町体育協会・芦屋町スポーツ少年団
代表者氏名	会長 古長 撓男	片山 和夫	田中 伸幸	会長 田中 美佐子	田口 博美	松上 宏幸
参加者氏名	・長沢 正行 ・末武 司郎	・石川 智雄	・古野 嘉子	・会長 田中 美佐子 ・副会長 香田 一之 ・副会長 信国 浩	・田口 博美	・島岡 清孝
(3)③望まれる対応策		・交通機関への利便性の向上 ・旧町民住宅の早期解体及び跡地の利用施策 ・観光資源を広くPR、人的交流の活性化	まとめて行う。	・もう少し、中に入りやすい雰囲気づくりを心がけてほしい。	・環境を良くして欲しい（雑草対策）	スポーツ大会の工夫
(4)①行政と取り組みたいこと		・常にプラス指向で取り組む ・少子高齢化に伴う自治区との一体化した協働連携施策	会員の自助努力では進展なく、行政と共存した事業の展開をしたい。	・パーティーの準備・片付けのときの人的支援（立食パーティーを行っているため、他の階から机の上げ下げをしなければならぬ）	・図書館に児童書を増やしてほしい ・公民館に置いてある本がとても古いものが多いのでできれば新しい本を入れてほしい	児童だけの大会でなく大人も参加させる
(4)②必要な支援		・行政との綿密な取り組み及び財政支援の確保 ・自治区事業内容のレベルアップ及び区長、区役員の処遇改善	町主催のイベントに取り込んでもらい、集客に努めたい。	・パーティーの準備・片付けのときのお手伝い 高齢化による体力的問題でパーティーの開催が難しいと感じている。（最近では役員である自衛隊OBの声かけで自衛隊の人にボランティア参加していただいている。）	・新刊書を入れてほしい	区からの協力体制

コミュニティ分野						
団体名	芦屋町老人クラブ連合会	芦屋町区長会	芦屋町文化協会	芦屋町国際交流協会	芦屋町手をつなぐリボンの会	芦屋町体育協会・芦屋町スポーツ少年団
代表者氏名	会長 古長 撓男	片山 和夫	田中 伸幸	会長 田中 美佐子	田口 博美	松上 宏幸
参加者氏名	・長沢 正行 ・末武 司郎	・石川 智雄	・古野 嘉子	・会長 田中 美佐子 ・副会長 香田 一之 ・副会長 信国 浩	・田口 博美	・島岡 清孝
(5)その他提案等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポート場の「ゆめりあ」の積極活用</li> <li>・航空自衛隊の観光資源としての活用</li> <li>・ポートルース事業の共栄共存</li> <li>・旧中央病院跡地及び港湾の有効活用</li> <li>・交通の利便性の積極的向上を目指す（モノレール構想）</li> <li>・その他海岸線を利用した観光資源の開発</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減を食い止める方法を考えてほしい。</li> </ul>	

産業振興分野				
団体名	芦屋町代表農事組合	遠賀漁業協同組合 芦屋支所	芦屋町商工会	一般社団法人芦屋町観光協会
代表者氏名	入江 一博	代表理事組合長 中西 隆雄	会長 黒山 敏治	会長 吉岡 学
参加者氏名	・小田 勝人	・中西 隆雄 ・河村 拓磨	・事務局長 入江 真二 ・地域振興係長 吉岡 誠二	・会長 吉岡 学 ・事務局長 天野 一司
(1)①設立年	不明	15 ※芦屋漁業協同組合時は不明	S35	※法人格取得H31,4月 任意団体ではS58
(1)②構成員の人数	82	35	421	会員事業所（80事業所内、役員16名） 事務局員（正職員4名、臨時職員4名）
(1)②男性	71	33		
(1)②女性	11	2		
(1)②平均年齢	70	58.8		
(1)③活動の頻度	2～3ヶ月に1回程度			・事務局職員等…毎日 ・役員会…2～3ヶ月に1回程度
(1)④主な活動場所	・芦屋町の一部 ・農業に関する箇所	・芦屋町の一部 ・芦屋港	芦屋町の全域	芦屋町の全域
(1)⑤活動の分野	1. 産業振興（農林水産業含む）	1. 産業振興（農林水産業含む）	12 その他（地域内経済振興）	2. 観光・交流活性化

産業振興分野				
団体名	芦屋町代表農事組合	遠賀漁業協同組合 芦屋支所	芦屋町商工会	一般社団法人芦屋町観光協会
代表者氏名	入江 一博	代表理事組合長 中西 隆雄	会長 黒山 敏治	会長 吉岡 学
参加者氏名	・小田 勝人	・中西 隆雄 ・河村 拓磨	・事務局長 入江 真二 ・地域振興係長 吉岡 誠二	・会長 吉岡 学 ・事務局長 天野 一司
(2)①活動の内容	農業を取り巻く環境の維持、改善	・組合員に対する販売、購買、利用、信用、共済、無線、指導などの各事業でのサポート	・小規模事業者への経営支援、経営改善普及事業、地域振興事業、組織基盤の強化等。	○芦屋町のPRを含む観光事業全般 ・芦屋海浜公園、レジャープール指定管理事業（レンタサイクル、イベント誘致等） ・芦屋海水浴場の管理運営 ・精霊流し事業 ・体験型観光プログラム推進 ・各種イベント事務局業務 ・自己財源確保のための収益事業 ・土産品販売事業（店頭販売、ネット販売ショッピングモール）
(2)②現状と今後の取組予定	荒廃農地の再生、担い手の育成	・組合員に対する販売、購買、利用、信用、共済、無線、指導などの各事業でのサポート	・小規模事業者への経営支援（相談・金融・税務・労務等）、創業支援、特産品開発事業、商品券発行事業、イベントを活用した集客の仕組みづくりに取り組んでいます。今後は、H29年3月に国の認定を受けた「経営発達支援計画」に基づき、伴走型支援により商工事業者の支援に引き続き取り組む。	・芦屋町への来場者（流入人口）増となる取り組みの実施 ・会員事業者を巻き込んだ観光事業 ・他団体イベントを活用したメディアへのPRによる芦屋町のPR

産業振興分野				
団体名	芦屋町代表農事組合	遠賀漁業協同組合 芦屋支所	芦屋町商工会	一般社団法人芦屋町観光協会
代表者氏名	入江 一博	代表理事組合長 中西 隆雄	会長 黒山 敏治	会長 吉岡 学
参加者氏名	・小田 勝人	・中西 隆雄 ・河村 拓磨	・事務局長 入江 真二 ・地域振興係長 吉岡 誠二	・会長 吉岡 学 ・事務局長 天野 一司
(2)③団体の課題	荒廃農地の再生、担い手の育成及び、組合員の高齢化	・魚価の低迷による収益減 ・魚獲高の減少 ・後継者不足	・事業者の高齢化及び事業承継、原材料の高騰・人手不足、町外への消費の流出等による事業者の減少。 ・商工会の業務量は、小規模事業者への支援施策の創設・拡充により増加しているが、職員数については、県補助金要綱による職員定数が定められており、職員数を増やすためには、独自の財源が必要となるため、現実的には職員増は不可能。	・会員事業への利益還元（観光客等が会員事業所を訪れる取り組み） ・役員の活動（役員が当協会の事業に関し、自発的な活動が出来ていない） ・事務局員の人員不足（事務局の業務量が多く、新規事業を提案、実施しにくい）
(3)①芦屋町まちづくり良い所	他の町にはない防鳥器の整備	・伝統や文化を大切にしている ・地域のコミュニティがしっかりと形成されている	・芦屋釜という、日本一（世界一）のブランドがある。 ・海岸線に公園が多く、多くの家族連れが来る。	・観光振興に理解があり、モチベーションの高い人材がいる
(3)②芦屋町まちづくり課題・問題点	・鳥獣被害・塩害の対応防除 ・農業用・集落の排水路の整備	・色々な施設や名所などのハードはあるが、それらが連携して誘客するなどのソフト面が無いと思う。 ・若い世代の転入が少なく、高齢化が進んでいる。	・商工業者、農業者、漁業者への町の独自施策が少ないように感じる。	・当町が目指している目的を共有できていないため、各団体が個々で考えたまちづくり事業を実施している（纏まりがない、横の連携ができていない）

産業振興分野				
団体名	芦屋町代表農事組合	遠賀漁業協同組合 芦屋支所	芦屋町商工会	一般社団法人芦屋町観光協会
代表者氏名	入江 一博	代表理事組合長 中西 隆雄	会長 黒山 敏治	会長 吉岡 学
参加者氏名	・小田 勝人	・中西 隆雄 ・河村 拓磨	・事務局長 入江 真二 ・地域振興係長 吉岡 誠二	・会長 吉岡 学 ・事務局長 天野 一司
(3)③望まれる対応策	近年のゲリラ豪雨等による雨水量増大についての排水路等の改善	・町内外から「芦屋町をよくしたい」と思う人物（20～40代）のみの団体を組織して、その団体に投資して「まちづくり」を進めていく。	・芦屋町の良さを発信し、芦屋町のファン（子どもや若い母親）を増やす施策の充実。 ・ふるさと名物応援宣言（芦屋釜）にある「全国的な周知活動」の具体的な取り組み。 ・町内の農・漁・商・工連携及び他地域との連携による町のブランド化。	・目的の共有 ・各団体の特色を生かした事業の実施、助言、連携などをマネジメントする部署の設置
(4)①行政と取り組みたいこと	稲作の合理化を目的とした送水管等の整備	・魚獲物の販路拡大 ・後継者の育成 ※現段階では、組合内での協議が必須	・小規模事業者の支援及び農水産物のブランド化及び販路拡大について、町と連携して取り組みたい。	・目的を共有した上での各団体の役割分担の整理 ・どのようにマネジメントしていくかの検討会の実施
(4)②必要な支援	担い手育成に伴う農業施設への支援	・他の行政での先進事例の紹介 ・先進事例先とのコネクションの形成	・商工振興に関する町の方向性を示し、それらに取り組みするための必要な予算措置。	・各団体の役職員、担当者での情報交換 ・行政職員を含む若い世代による検討会の実施（特に行政職員は、自らの業務の垣根を越えて）

産業振興分野				
団体名	芦屋町代表農事組合	遠賀漁業協同組合 芦屋支所	芦屋町商工会	一般社団法人芦屋町観光協会
代表者氏名	入江 一博	代表理事組合長 中西 隆雄	会長 黒山 敏治	会長 吉岡 学
参加者氏名	・小田 勝人	・中西 隆雄 ・河村 拓磨	・事務局長 入江 真二 ・地域振興係長 吉岡 誠二	・会長 吉岡 学 ・事務局長 天野 一司
(5)その他提案等		・少子高齢化に対する対策	・特に、若い人（子どもやお母さん）が住んでも、遊びに来て、楽しく喜べる、「ずっと住みたい！また来たい！」と思えるまちづくりをお願いします。	<p>【目的】人口を増やす（移住者、定住者）</p> <p>観光協会…芦屋町を知ってもらい、魅力を体感してもらい等の活動</p> <p>商工会…店舗誘致、経営者の資質向上、店舗のサービス向上等の活動</p> <p>芦屋町…全分野、特に福祉、教育、生涯学習、移住定住サービスの強化等の活動</p> <p>※定期的な各団体の担当者による情報共有会の実施</p>

教育・福祉分野					
団体名	芦屋町社会福祉協議会	芦屋町四校PTA連絡協議会	芦屋町青少年健全育成町民会議	芦屋町人権・同和教育研究協議会	芦屋町民生委員児童委員協議会
代表者氏名	会長 鈴木 清吾	金田 恭俊	会長 片山 和夫	松田 義春	会長 野崎 昭吾
参加者氏名	・安部 知彦	・金田 恭俊 ・奥園 美好	・本宮 久江 ・片山 和夫	・松田 義春	・副会長 小徳 薫
(1)①設立年	1980	不明	H18	不明	1979
(1)②構成員の人数	116 (高齢者能力活用事業含む)	50	・町民会議・運営委員及び校区育成 会議役員129人 芦屋町に居住する全ての人	45	27
(1)②男性	49	26		30	8
(1)②女性	67	24		15	19
(1)②平均年齢	-	40		不明	72
(1)③活動の頻度	-	月に1~2回程度	週に1回程度	月に1~2回程度	毎日
(1)④主な活動場所	芦屋町の全域	芦屋町の全域	芦屋町の全域	芦屋町の全域	芦屋町の全域 (各民児委員が地域ごとに実施、うち主任児童委員は町全域)
(1)⑤活動の分野	4. 福祉 (児童・高齢者・障がい者) 5. 地域コミュニティ	4. 福祉 (児童・高齢者・障がい者) 10. 教育・青少年健全育成	3. 健康づくり・スポーツ 4. 福祉 (児童・高齢者・障がい者) 5. 地域コミュニティ 9. 防犯・防災・交通安全 10. 教育・青少年健全育成 11. 人権啓発	11. 人権啓発	3. 健康づくり・スポーツ 4. 福祉 (児童・高齢者・障がい者) 5. 地域コミュニティ 6. 生涯学習・スポーツ・文化芸術 9. 防犯・防災・交通安全 10. 教育・青少年健全育成 11. 人権啓発

教育・福祉分野					
団体名	芦屋町社会福祉協議会	芦屋町四校PTA連絡協議会	芦屋町青少年健全育成町民会議	芦屋町人権・同和教育研究協議会	芦屋町民生委員児童委員協議会
代表者氏名	会長 鈴木 清吾	金田 恭俊	会長 片山 和夫	松田 義春	会長 野崎 昭吾
参加者氏名	・安部 知彦	・金田 恭俊 ・奥園 美好	・本宮 久江 ・片山 和夫	・松田 義春	・副会長 小徳 薫
(2)①活動の内容	<p>【地域福祉事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛の福祉ネットワーク推進事業：自治区を活動の単位としたひとり暮らしの高齢者等の見守り・住民の交流事業・福祉マップ事業</li> <li>・地域サロン事業（町事業）への支援</li> <li>・高齢者への生活支援事業等の受託：あしや助け合い・支え合いの会（あしたの会）の運営支援</li> <li>・ボランティア活動の推進：リボンの会の支援、ボランティアセンター事業の実施</li> </ul> <p>【受託事業関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等配色サービス事業</li> <li>・老人憩の家管理運営事業（山鹿荘、寿楽会館、鶴松荘）</li> <li>・高齢者能力活用事業</li> <li>・日常生活自立支援事業の実施（県社協事業）</li> </ul> <p>【介護事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護支援事業・訪問介護事業・通所介護事業</li> </ul>	芦屋町4校の児童・生徒の為、またそれを通して教師・保護者も成長していける取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の見守り活動（一年を通して）</li> <li>・月2回のあいさつ運動及びボランティアによる登校時の活動（毎日）</li> <li>・青色パトロール車に見守り及び広報活動</li> <li>・非行防止のための巡回活動</li> <li>・その他地域コミュニティ醸成活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報あしや「差別をなくすために」掲載（毎月1日号掲載）</li> <li>・定期総会（6月頃）</li> <li>・街頭啓発、人権講演会（7月頃）</li> <li>・街頭啓発、人権まつり（12月頃）</li> <li>・人権カレンダー発行（12月15日）</li> <li>・人権啓発冊子発行（3月15日）</li> </ul>	厚生労働大臣の委嘱により社会奉仕精神をもって芦屋町のあらゆる福祉活動や生活援助、支援等を行い、安心安全な地域づくりを目指す団体であり、各委員を地域ごとに分散配置をして活動している。 なお、主任児童委員2名は町内全域を担当
(2)②現状と今後の取組予定	住民の協力のもとに上記事業を進めています。少子高齢化や福祉問題（生活問題）地域での助け合いはますます重要となってくる。社協は住民や関係機関等との協働のもとに地域福祉を推進していく組織であるため、上記活動を充実させていく予定です。	母親研修会・懇親スポーツ大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校時の見守活動の拡大（青パトの利用拡大）</li> <li>・みまもり隊の新規登録及び名簿の更新・バスの作成</li> </ul>	既存の活動内容を継続しつつ、さらなる充実を図っていきたい。	3年ごとに実施される一斉改選が来年12月1日付で実施されるが、委員定数32名に対し、主任児童委員を含む総員26名態勢である。なお、委員不在地域の担当は、その近隣地域の担当が兼務しカバーしている。

教育・福祉分野					
団体名	芦屋町社会福祉協議会	芦屋町四校PTA連絡協議会	芦屋町青少年健全育成町民会議	芦屋町人権・同和教育研究協議会	芦屋町民生委員児童委員協議会
代表者氏名	会長 鈴木 清吾	金田 恭俊	会長 片山 和夫	松田 義春	会長 野崎 昭吾
参加者氏名	・安部 知彦	・金田 恭俊 ・奥園 美好	・本宮 久江 ・片山 和夫	・松田 義春	・副会長 小徳 薫
(2)③団体の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりのための人材は、ますます重要となるため、地域福祉をすすめるための人材（コミュニティワーカーやコミュニティソーシャルワーカー）の確保と育成</li> <li>・財源確保</li> </ul>	4校同士の緊密さを更に深めていく事	・少子高齢化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事に一般町民の参加が少ない。</li> <li>・参加者がいつも同じ顔ぶれになる。</li> </ul>	上記②の不在地域兼務の委員は地域密着性と意思疎通の面からも地域住民の期待に十分対応できない面がある。
(3)①芦屋町まちづくり良い所	町がコンパクトなため、地域福祉活動に取り組みやすい いろいろな地域活動に住民の協力が得やすい	行政とPTAが緊密に連携し合い、児童・生徒の環境が整っている所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊基地との共栄共存</li> <li>・公営モーターボート事業の維持、発展</li> <li>・花火・砂像展・まつり芦屋の続行</li> <li>・あしや釜の里の事業向上施策</li> <li>・レジャープール事業の続行</li> </ul>	行政の協力ありがたい。さらなる協力をお願いしたい。	町をあげての行事や各種大会や、みどり園祭には積極的に参加しているほか、小中学校の児童生徒のあいさつ見守り活動も継続中である。
(3)②芦屋町まちづくり課題・問題点	同じ人の参加が多い。若い人の参加が少ない。ボランティア等で活動に協力してくれる人は60～70歳台の人が中心で、次世代の育成が課題。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少</li> <li>・レジャー港事業に関する諸課題</li> <li>・中央病院跡地の利用施策</li> <li>・交通機関の利便性の向上</li> <li>・正門商店街の活性化</li> </ul>	町民の人権問題に対する関心が薄い。もっと啓発していかねばならない。	近年は①隣組未加入者②独身高齢者③生活保護受給者が増加傾向にあり、地域住民との交流がないため、委員の安否確認訪問を嫌がっている時があると見聞きしている。

教育・福祉分野					
団体名	芦屋町社会福祉協議会	芦屋町四校PTA連絡協議会	芦屋町青少年健全育成町民会議	芦屋町人権・同和教育研究協議会	芦屋町民生委員児童委員協議会
代表者氏名	会長 鈴木 清吾	金田 恭俊	会長 片山 和夫	松田 義春	会長 野崎 昭吾
参加者氏名	・安部 知彦	・金田 恭俊 ・奥園 美好	・本宮 久江 ・片山 和夫	・松田 義春	・副会長 小徳 薫
(3)③望まれる対応策			経済支援の拡大（交通機関に対し）	啓発方法・手段にもっと工夫が必要	一部の自治区域で取組んでいる①愛の福祉ネットワーク②サロン活動等の事業を定着させて、地域住民が交流できる行事・場所等を設定し、いこいの場として活用してもらいたい。地域の区長と委員の連携が必要
(4)①行政と取り組みたいこと	現在、少子高齢化が進み、かつては家族や地縁で行われてきた「助け合い・支え合い」ができにくくなり、地域の中の生活課題は増えてきています。人口減少や高齢化により今後もこの生活課題は増え続けることが予想されます。現在、本会の活動を通じて「移動」「買い物」「ゴミ出し」など、多くの課題が寄せられます。会員同士の助け合いグループ「あしや助け合い・支え合いの会（あしたの会）」が組織され活動を開始しましたが、これだけでは対応できない課題が多くあります。フォーマルな支援の体制整備は行政等が行うべきですが、インフォーマルな（住民参加によるもの等）支援体制づくりは、本会の使命と考えています。このような地域課題の解決を協働で取り組みたいと考えています。	児童・生徒の為に共に活動していきたい。	・常にプラス指向で取り組む ・少子高齢化に伴う自治区との一体化した協働連携施策	従来どおりで良い	事務局の福祉課と常に連携し、意見やアドバイスを頂いている。特に不在地区等の委員情報の収集
(4)②必要な支援	ひき続き、活動拠点（福祉会館）の提供や補助金の交付をお願いいたします。		・行政との綿密な取り組み及び財政支援の確保	さらなる協力をお願いしたい	

教育・福祉分野					
団体名	芦屋町社会福祉協議会	芦屋町四校PTA連絡協議会	芦屋町青少年健全育成町民会議	芦屋町人権・同和教育研究協議会	芦屋町民生委員児童委員協議会
代表者氏名	会長 鈴木 清吾	金田 恭俊	会長 片山 和夫	松田 義春	会長 野崎 昭吾
参加者氏名	・安部 知彦	・金田 恭俊 ・奥園 美好	・本宮 久江 ・片山 和夫	・松田 義春	・副会長 小徳 薫
(5)その他提案等	芦屋町は、行事や地域活動に多くの方が参加してくれます。しかしながら、同じ人が多くの行事に関わったり、参加者の高齢化の問題もあります。住民参加の良いところを今後も継続していくために、幅広い年代層の活動づくりが必要と思われます。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボート場「ゆめりあ」の積極活用</li> <li>・航空自衛隊の観光資源としての活用</li> <li>・ボートレース事業の維持・発展</li> <li>・中央病院跡地及び港湾資源の有効活用</li> <li>・温泉の掘削及び事業化</li> <li>・道の駅の創設</li> <li>・交通の利便性を目指す</li> <li>・海岸線を利用した観光資源の開発</li> <li>・モノレール構想</li> </ul>	自治活動が評価される仕組みづくり。 自治区加入率の向上のための施策の工夫。	優れた名所、旧跡が多いので、広く活用したと思います。